【講 習】　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　提　出　　平成３１年１月２９日

山　行　報　告　書

山行報告者：佐 藤 ゆ

山 域・山 名：谷 川 岳 雪 山 講 習　　（群馬県利根郡みなかみ町）

入山日又は期間：平成３１年１月２６日(土)　～２７日(日)　　（１泊２日）

プラン担当者　正：今田　　副：

参加者

Ｌ：今田　　報：　　記：佐藤ゆ
平野、鈴木、齋藤、北田

男５名 、　女１名、　計６名

天候　雪

１月26日 (土)	集合時間：７：00　　集合場所：ファミリーマート上尾小敷谷店駐車場 上尾 7:10 発～北本鴻巣 IC～水上 IC～11:00 谷川岳ロープウェイ立体駐車場 ロビー～11:30～登山センター周辺にてテント設営・雪洞の作成、雪洞ビバーク
１月27日 (日)	5:30 起床～7:00 行動開始。滑落停止訓練場所作り～ツェルト設営講習～ 滑落停止訓練。11:30 頃、１日講習チームと合流。滑落停止訓練～雪上での ロープワーク練習。 13:30 終了～ふれあい交流館にて入浴～水上 IC～北本鴻巣 IC 19:00 前大宮着

装備と食糧

共同装備：ロープ（平野、今田)、会５人テント×２張（鈴木、今田)、
会プローブ（今田)、会スノーソー×２（今田）会スコップ１個（今田）
大コッフェル（今田、鈴木)、26 日夕食６人分（鈴木　)、車（斉藤、今田）

個人装備：シュラフ、シュラフカバー、マット、銀マット、ヘッドランプ、雨具、防寒衣、
ピッケル、アイゼン、手袋、テルモス、新聞紙、ごみ袋、目出帽、ゴーグル、
ヘルメット、ハーネス(テープスリング代用可)、シュリンゲ、
環付カラビナ２枚、ストック、ワカン、コッフェル、カラトリー、地図、
コンパス、ナイフ、ラジオ、あればテントシューズ、バーナー、ツェルト、
スコップ、お風呂セット

個 人 食：26 日昼食、27 日朝食、昼食　つまみ　お酒

感想＆要注意事項

ちょうど週末にかけて寒波注意報が出ていた。通常の雪山山行であれば中止になる天気だろう。しかし、今回は雪山訓練。むしろ非常時のビバークなどを体験するには実際に近い条件での体験ができる。予定通り決行された。

１月26日(土)
２日間参加のメンバーは６名。

次ページへ続く

感想＆要注意事項	各自、自宅近くでピックアップしていただき、7:00 上尾に一旦集合し、２台にて谷川岳へ向かう。 関東は晴れていたが、水上のほうに着く頃にはすっかり雪深い景色に。 久々の雪深さにテンションが上がる。 １０半頃、谷川岳ロープウェイ駐車場に到着。身支度を整えて出発。 雪山訓練に最適な地形のある場所へ登山センター付近から少し登って向かう。 登り始めてすぐに、つぼ足では困難な雪深さとなり、全員ワカンやスノーシューを装着。 先頭の方にはラッセルしていただき、１１時半頃？目的地に到着。 そこは、ある程度平らな場所があり、かつ適度に盛り上がって雪洞を作りやすい地形もあり、風が弱い、なおかつすぐ裏に滑落停止訓練をするのにちょうど良い若干急な斜面があった。後から考えると本当に最適な地形だった。 まずはテントを設営しやすいように雪面を慣らして平らな場所を作ることに。スコップで雪を移動させたり、皆で雪面を踏んで平らな場所を作る。 そしてテント設営。それが済んだら、雪洞作り。 少し盛り上がっている地形を利用して、そこに雪洞を今回は２つ掘った。 ３人で１チームとなり、スノーソーやスコップで雪洞を掘る人達と、掘られた雪を別の場所へ移動する人というだいたいの役割で掘り進めていった。なかなかの重労働。でもなかなか楽しかった。 各雪洞に２人ずつ快適に寝られるよう、割と大きいスペースを掘った。所用時間は、測っていなかったが感覚では２時間くらい？複数人でやってもこの程度かかったので、実際の緊急時にはこんな広さの雪洞は作れないだろう。 雪洞が完成し、諸々の支度を整えたら、テントにて夕食＆反省会（宴会）。 平野さんからの発泡酒の差し入れで乾杯！そして鈴木さんが美味しいお鍋を用意してくださった＆今回も可愛いスイーツも^_^ テントの中、お鍋の湯気をもくもくとさせて暖かく楽しい夕食だった。 自分は雪からの水作りも初体験できた。呼び水としてお湯を作えば意外に簡単にできるようだ。 18 時半過ぎ、お開きとし、いよいよ初めての雪洞泊…不安もあったが、もし何かあっても皆さんがいるから大丈夫…そう思って安心して眠りについた。 雪洞の中はけっこう暖かく（おそらく０度程度）、快適に朝まで熟睡した。 １月 27 日(日) 翌朝は５時半に起床、７時少し過ぎから行動開始。 昨日から雪は降り続けていたが、さらにたっぷりと雪が降ったようで、周りの雪嵩が昨日より 1.5 メートルほど増えているようだった。 昨日つけたトレースは完全に消え、全方位雪に囲まれている。 まずは、自分の都合もあり駐車場まで戻ることに。ついでに２日目のみ参加の日帰りメンバーにわかりやすいためにトレースをつけようということで、途中の一般トレイルのところまで全員に付き合っていただき、その先も齋藤さんに付き合っていただいた。 雪道だと本当に帰り道がわからなくなりそうだったのでありがたかった。 次ページへ続く

感想&要注意事項	泊っていた場所は風が弱めだったが、少し移動すると風が強く、顔や手先が痛いくらい。 雪も道路上でも膝くらいまで積もっていて、駐車場まで戻るだけでも一苦労だった。 その後、定着場所まで戻る際は、除雪車が道路の雪は除雪してくれたのでだいぶラクになっていた。 定着場所に戻ると、泊った雪洞のすぐ裏の斜面に、皆さんで滑落停止訓練用の斜面を作っていただいていた。雪が降ったばかりでフカフカで滑落にならないのでラッセルして雪を固めてくれていたのだ。 　少し休憩後、今田さんによるツェルト設営講習。 　　①単純にツェルトだけを使って４人入る方法 　　②トレッキングポールとスリングとピッケルを使ってツェルトを立てて使う方法 　　③雪壁を（作って）利用して、ピッケルで少し張ってツェルトに入る方法 その後、滑落停止訓練開始。 お尻から滑ってスピードが出てきたところで、身体の向きをうつ伏せに返して、胸の辺りでピッケルを雪面に刺して停止する。 最初はピッケルを持った手が胸の近くから離れてしまったりして上手くいかなかったが、何回もやるうちに少しは良くなってきたようだ。頭から滑落した場合も想定して頭を下にしてもやった。 　その後、日帰りメンバーが合流。つけたトレースもすぐ消えてしまったようで、この場所になかなかたどり着けなかったようだ。 日帰りメンバーも参加して、さらに滑落停止訓練。また、ロープも設置していただいており、雪上でのロープによる確保をしながら降りる練習も。 　13 時 30 分頃、練習終了とした。 全員で駐車場へ戻り、後片付け。 湿気のある雪だったこともあり、それが降り続ける中、たくさん雪に触れる訓練をしたので、自分のウェアや手袋は濡れてしまい、あちこち凍っていた。雪山で手袋が濡れてしまうと当然指先が痛くなったりもした。これまでは良い条件の中でしか雪山を経験してこなかったということを思い知らされた。もっとしっかりした防水の装備にする必要があると気づいた。 ワカンの使い方もままならず、深い雪の中で歩くのが困難となって装着したのも初めてだったし、色々な雪山の厳しさを実感することができて、大変貴重な経験となった。 ご指導いただいた皆様、ありがとうございました。 以　上